



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2011年6月第1週号

第2314回



平成23年6月3日(金) 点鐘12:30 (曇り)

- ◆国歌斉唱 『君が代』
- ◆ロータリーソング 『奉仕の理想』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

・ホテルオークラ 執行役員 村田 紀之様

■ 会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

理事・役員会報告

1. 入会候補者の件
江幡清子氏⇒ 承認される
2. 退会届の件
大野良亮会員、澤本弘会員、瀬谷研一会員(転勤)
⇒ 承認される。
3. IM不足金について
第3分区Bでは、各クラブが負担することに決まった。
(各クラブ2万円)
4. 「職場訪問及び親睦旅行」会計報告 承認される。
5. 東日本災害義捐金の返金について
ガバナー会より、第3分区ABへ30万円の割当金があったが、ガバナー事務所に預け、義捐金として使ってもらったこととした。

■ ご案内

鈴木美津江副会長より

今年度、水野ガバナー補佐におかれましては、大変ご活躍を頂きまして本当にご苦労様でございました。

水野ガバナー補佐と今年度の会長、幹事の慰労会、次年度の会長、幹事の激励会を行いたいと思いますので是非お集まり下さいませよう宜しくお願い致します。

日時⇒ 平成23年7月15日(金) 午後6時～

場所⇒ オークラ千葉ホテル 会費⇒ 7,000円

■ ご挨拶

瀬谷 研一会員

こちらで5年間お世話になりました。本当に有難うございました。この後は名古屋に参ります。オークラの子会社で、レストランと宴会場を運営する会社の代表取締役ということでご使命を受けました。今度は、従業員を守るだけではなく株主さんも守らなければならないということで、何とか潰さないように、又、少しでも名古屋が盛り上がって行くように頑張りたいと思います。皆様におかれましては健康に留意され、千葉南クラブを益々盛り上げて行かれることを祈念しております。本当にお世話になりました。有難うございました。

■ 6月度 会員誕生祝い・結婚記念日祝い

【誕生日祝い】

なし

【結婚記念日祝い】

1日 畠山 明則会員 10日 澤本 弘会員

■ ニコニコボックス報告

☆植松 省自会員

大野会員、今年度プログラム委員としての最後のお努めの卓話、宜しく願い申し上げます。

寺澤会員、写真を有難うございました。

☆塩谷 邦昭会員

先日の「職場訪問及び親睦旅行」は、皆様のご協力により無事終わることが出来ました。有難うございました。

☆瀬谷 研一会員

このたび、名古屋へ転勤することになりました。5年間、大変お世話になりました。詳しくは後ほどお話しさせていただきます。

☆出井 清(会長以外)会員、伊藤 和夫(副幹事)会員

先週の次期理事・役員・委員長会議にご出席の皆さん、ご苦労様でした。一層のご協力をお願いします。

☆出井 清会員

親睦旅行へご参加の皆様、お疲れ様でした。天気は生憎でしたが、楽しい時を過ごせました。“ビンゴ大会”に2回とも当たり、“ごっつあん”でした。親睦委員の皆さんご苦労様でした。ありがとう！

☆吉田 裕成会員

このたびは、亡き妻の葬儀に際しまして、ご多忙のところご会葬いただき、誠に有難うございました。そのうえ、

ご丁寧なご厚志を賜り、厚く御礼申し上げます。
有難うございました。

本日のニコニコボックス	17,000 円	累計	600,000 円
金の箱	2,931 円	累計	33,898 円

出席報告 (会員数39名)

出席者数31	欠席者数 8	ビジター 0	修正出席率 81.58%
--------	--------	--------	--------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	6/28	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	6/28	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	6/15・29	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	6/29	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	6/30	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	6/23・30	京成ホテルミラマーレ

★本日の卓話★

演 題…『回顧録』 卓話者… 大野 良亮会員



大野でございます。先程申し上げましたように今期で退会させていただきます。34年間お世話になりました本当にありがとうございました。

お話をする前に回覧していただきたいものがあります。
鳩居堂で開催される展覧会



が来週からございますが、その図録が昨日、手許に届きましたので回覧させていただきます。

私が当ロータリークラブに入会したのは、昭和52年でございます。生まれは、八街でございまして、佐倉中を出まして法政大学へ行きました。中学、大学は、どちらかと言えば、体育会系の人間でございます。しかし、小学校時代と中学校時代の受け持ちの先生が「書」に熱中した先生で、その影響を受けまして、書道を若い頃大分やりました。今思うと、そのままやっていたら、今現在一流の先生になっていたのではないかと思います(笑)

このクラブに昭和52年に入りまして、あちらこちらと旅を続けました。私の作戦といたしまして、旅をするということは、無理なくとも仲良しになれるということが、海外旅行の私の目的でありまして、かれこれロータリークラブで10回ぐらい行ったのではないかと思います。

私がロータリーに入ってきた時、3～4歳年上の東洋ロッカーの中村さんという方が私の会社の100m先位の所におりました。その方が旗を振りまして、まず海外旅行の手始めが始まりました。敬称を略しますが、恩田、水野、今関、金谷、大野、中村の6人で昭和63年に北京、西安、洛陽へ行きて、当時『兵馬傭』が発掘されたばかりで、その『兵馬傭』とか『万里の長城』とか『明13陵』とか

回ってき来ました。その後、そのグループでまた中国の蘇州とか寒山寺とかに行きましたが、その当時の寒山寺は、後に行った時には綺麗に造り直してありました。

寒山寺の有名な石碑があります。そこで、中村さんが詩吟を唸ったことがありました。姑蘇城外の寒山寺というものです。その大僧正が書を書いておりまして、私から見るとあまり巧くはないと思うのですが、皆さん競って買っていました。

そして、平成元年になって、インドネシアとバリ島へ大体同じメンバーで行きました。インドネシアのキャピタルへ行きて、面白いことには自転車の前の荷台みたいなところへ人間が乗ります。『ペチャ』といいます。その自転車を買って(チャーター)街を散遊しました。

その次に旅行したのが、シンガポール、香港です。シンガポールは中村さんの話によると、戦争当事、あそこの飛行場が当事の収容所であったということでした。同じメンバーであっちこっちへ行きました。また、同じ年にオーストラリアへ行きました。ゴールドコーストから入りまして、メルボルンへ行き、その少し南の方にペンギンを観光できるところへ行きました。海岸べりに簡単なスタジアムが建っておりまして、そこで観覧するわけです。海から一斉にペンギンが上がって来まして、横に列横体に並びます。ペンギンがあっちこっち見て、1匹か2匹足りなかつたらしいです。一列がまた海に戻りました。そういう習性があるらしく、少し経ったら海から上がってきて一列に並びました。今度は全員整理ということで陸(おか)の方へヨチヨチ歩き始めました。水際から100m位のところで防空壕みたいな横穴にペンギンの巣がありました。

そういうことで、見聞を広める、ともかく観るといことは、色々なことを体験し、又、覚えるということで、益々私の旅行熱がピークになりまして、今度は平成5年になると、中国は大野さんが詳しいということで、私が篆刻(てんこく)をやっている関係で、中国については詳しいことは詳しいのですが『黄山』という山へ行こうということになりました。今度は私が旗を振り、ロータリー仲間の恩田、水野、今関、松尾、吉田、笹本、大野、前田の合計8名で黄山へ行きました。頂上までケーブルで昇り、2泊いたしました。その頂上で、その周りを観光するわけです。私は籠を買いました(チャーター)。中国でいえば高い代金でした。あるところに行くと、今関さんが籠と一緒に歩いてきました。「あれ、どうしたの?」と聞くと、「ちょっと怖くて乗ってられない」ということでした。ともかく黄山の頂上は、平坦なところがせいぜい5mで、あとは全部上りか下りか、どちらかのところですよ。そういう経験もいたしました。

次に行ったところが、『長江、三峡下り』というものです。将来、ダムを造るので、埋まってしまうという



ことで、『三峡下り』が計画されているわけです。三峡下りは、起点が重慶です。近畿ツーリストがチャーターした日本人だけが乗る船があります。そこには近畿ツーリストの東京、大阪、九州の皆さんが集まって、約100名位の人がその船に乗るわけです。その船は、三峡下りの間は3日間、船の中で宿泊するわけです。重慶では、船に乗る前に博物館へ行きました。ところが、入場料を取る美術館でありながら電気が全部消えています。暗いところで見せられて、階段を上って上まで行きました。4階から5階へ行くと、真っぴかりです。何があるかという、そこはお土産店でした。まさに中国流というのは、こういうものかと思いました。重慶の港へ来たら、船に乗るところの階段はめちゃくちゃです。ただ石ころを並べてある状態で、そこに浮浪者風の人がいっぱい座っています。その危ない階段に我々が行くと腕を貸すわけです。私は「ブヨ、ブヨ」

と言って断りました。本当の観光地でありながら、そこまで手が回らないのかとつくづく思いました。そして、船に乗っていったところ、途中で船が止まりまして、そこで降りたのが有名な『白帝城』です。ここでも私は籠を買いました(チャーター)。坂道の両脇にはガードレールはありません。白帝城というところは、皆さんも『三国志』でよくご存知だと思いますが、『諸葛孔明』とか『劉備』とかが会見したところ。それから船に乗りまして、今度は『屈原』というところで降りまして。屈原はここまで水が来るんだよという標識がありました。そこに屈原記念館というのがありまして、立派な書がありました。『郭沫若(かくまつじゃく)』という方の書です。これは、私も唸ったほど上手でした。

注) 郭沫若: 中国の文学者、政治家、名は開貞。

四川の人。日本の九大医学部卒

その郭沫若という人は、市川に住んでいたことがある方です。それで中国でNo.2か、No.3ぐらいになった人です。

それから、また船に戻りまして、最後に辿り着いたところが、『武漢』というところ。戦時中『武漢三鎮』という言葉がありました。その武漢というところで降りまして、有名な『黄鹤楼』という公園があります。そこは面白いことには、入場料を取ります。入りまして上りのエレベーターに乗ります。上に昇って展望します。降りる時は、私は下りもエレベーターで帰ると言いました。皆さんは、下りだから歩いて帰ったようです。ところが、下りだけ料金を取るのです。これも驚いた中国の状態です。行きは料金を取らないで、下りだけ取るという、これは作戦かと思いました。降りてきたら本田さんがゆうゆうとタバコを吸っておりましたところ、公園の入口に『禁煙』と書いてありました。本田さんのところへ掃除のおばさんがすっ飛んできて、即、罰金を取られました。あっちこっち中国流のやり方を見せ付けられました。

平成10年、私が旗を振ってアメリカ東部とカナダへ行きました。驚くなかれ、25人の参加です。ロータリー以外の方が2~3名おりましたが、奥さん連れが8組おりました。それで25名になったわけです。この時は、ケネディさんのお墓へ行ったり、ナイアガラへ行ったり、アメリカの本当の自由の女神を観て、その島へ上がったり、解りもしないのにオペラに行ったり、色々体験もいたしました。

平成11年、ベトナム、香港へメンバー16人でハノイから入り、フエ、ホーチミンと北から下っていきます。さすがにホーチミンは凄いです。何と申しますか、ホンダ(HONDA)一色というか、中国では自転車が多かったのですが、ここへ来ると単車(オートバイ)が多くなりました。つまり、ホーチミンのパワーと言いますか、凄いものを感じました。

平成12年、中欧3カ国へ19名で行きました。今は亡き須田さんが私の音頭に乗ってくれまして、花澤さん、野城さんも一緒に行ったようでしたね。これはチェコ、ハンガリー、ウィーン、プラハと周りました。ウィーンへ行った時に、せつかくここへ来たのだから音楽を聴こうということで、ホテルへ手配をお願いし、夜、あるところへ音楽を聴きに行きました。

平成13年、水野さんたちと旅順、大連、瀋陽へ行きました。まず驚いたのは、子供の頃に習った旅順攻略の問題が頭に浮かんできました。乃木大将のご息が亡くなったという『203高地』、ここでも私は籠を買いました。しかし、舗装された割合なだらかな道でした。203高地の上まで行くと眼下に旅順港が見えます。なるほど、これを攻略しないと勝てないんだなとつくづく感じました。皆さんは、お若いから知らないと思いますが、昔、広瀬中佐と杉野兵曹長という戦時中の話が、この『旅順港の閉塞』という事柄を小学校の時

に勉強したことがあります。

私がロータリーの会長は、平成8年の時でした。この前後は、このように皆さんとコミュニケーションをとっていただき、何とか仲良く運営も出来たのではないかと思います。その他に私の旅行好きを焚きつけたのは同期の桜のメンバーです。これが私の旅行のはしりといえますか、まず、オランダのハーグへ平成7年に行きました。皆さんもご存知だと思いますが、オランダのハーグというところは、国連の裁判所があるところです。これに我々同期の中の小田が日本代表で副所長として行っておりまして、そこで国連の裁判所の中を良く見せていただきました。こちらがイスラエル、こっちがレバノンと、国連の裁判所の中をつぶさにお勉強した経験があります。そこで小田が我々同期の中の一番の出世頭らですかね。帰国して、勲一等に値する勲章を貰いました。その任期が6年間とか割合長いのです。小田が帰ってきた後で、日本の代表で行ったのが皇太子妃のお父さん、小和田さんが小田の後に国連の裁判所に行っております。

それから、私が篆刻をやっておりますので、中国では北京と上海と合同展をやしまして、その合同展が終わるとそれぞれのグループがあちこちへ観光に行きます。そういうことで、中国はまだまだ発展途上であるというようなところ、『武夷山』とかそういうところの川下りもやったことがあります。ともかく、その他に篆刻の連盟のツアーが1年毎にありますので、それに参加したり、個人でスペイン・トルコ・エジプトへ行ったり、エーゲ海に行ったり、北欧へ行ったりしました。北欧のオスロでは、『白夜』を経験いたしました。

同期の会の時には女房を連れて行きます。そういうことで大分女房孝行をしていたのではないかと思います。

今思うと、ニュージーランドのマウンテンクックへ行った時とか、そこでは飛行機を買います(チャーター)。小型機でニュージーランドの雪のあるところへ着雪(着陸)して帰ってきたとか、オーストラリアへ行った時は、『エアーズロック』という大きな岩を観る為に飛行機に乗りました。エアーズロックの大きいもの他にちらほら同じような岩がたくさんありました。あそこもまだ観光地としては発展途上かなと思われました。

時間がきましたので、ここでやめます。(文責 伊藤和夫会員)



“旅は道連れ世は情け”ということで、ロータリアンを始め、多くの良き仲間を作られたこと、奥さん孝行も忘れず、旅先での色々な体験をされたこと、素晴らしいと思いました。千葉南ロータリークラブでの34年間、回顧録、旅の楽しい思い出は、とても語り尽くせなかったと思います。またの機会を宜しく願いいたします。卓話有難うございました。(伊藤和夫)



第2315回例会

日時⇒ 平成23年6月10日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『大人が変われば子どもも変わる
～次代を担う青少年育成活動～』

卓話者⇒ 財団法人 千葉県青少年協会
事務局長 入江 正了様

第2316回例会

日時⇒ 平成23年6月17日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『ゆめ半島房絵の美術 パートII』

卓話者⇒ 川合 柗栄 様